



プレスリリース No. 08/262
即時解禁
2008年10月29日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

IMF、資本市場参加国を対象とした「短期流動性ファシリティ」設立へ

国際通貨基金 (IMF) 理事会は本日、「短期流動性ファシリティ (SLF)」の設立を承認した。このファシリティは、強固な経済政策を実施しているものの、国際資本市場において一時的な流動性の問題を抱えている国を対象としており、同ファシリティ設立によって、これらの国々に対し迅速な融資が可能となる。

ドミニク・ストロスカーン IMF 専務理事は、「IMF 理事会が資本市場参加国 (market access countries) を対象とした新たなファシリティ、短期流動性ファシリティ (SLF) の設立を承認したことをここに発表するとともに、これを歓迎する。」と述べた。「目下の国際資本市場における混乱により、一部の新興国は一健全なマクロ経済フレームワークを有し資本市場へのアクセスの実績がある国々でさえ一深刻な流動性の問題に直面している。既存の IMF のファシリティも柔軟に対応しているが、これらは基本的に資金が必要でかつ経済政策の調整を必要とする国々を対象としており、これまで堅調な経済状況を維持しそれを推進する政策を実施してきたにもかかわらず、短期的な流動性の悪化に直面している国を対象としたものではない。この度承認されたファシリティは、IMF の金融支援ツールキットのこの様なギャップに対応するものとなっている。」と専務理事は述べた。

ストロスカーン専務理事は、IMF は、現在の危機に対し連携的で協調的なアプローチを後押ししていくと強調した。「非常時には、尋常ならない対応が必要である。」と同専務理事は語る。「IMF は、融資の要請には迅速に、そして柔軟に対応している。これまで数カ国に対し、現在の危機を克服し、持続可能な対外バランスを回復するために不可欠と判断された政策措置のみを条件に、早急にかなりの規模に及ぶ資金を提供している。」とストロスカーン氏は述べた。

またストロスカーン専務理事は、本日発表された、米国連邦準備制度理事会、ブラジル中央銀行、メキシコ中央銀行、韓国銀行、シンガポール通貨庁による暫定的な相互通貨取決め制度 (スワップライン) の設立を歓迎した。この二つのファシリティは、別個のものではあるが、他の中央銀行間で既に設立されたものと同じく、国際金融市場の流動性を改善し、経済のファンダメンタルズが健全で経済運営も適切な国・地域が外貨資金調達に困難をきたしている状況が、これ以上広がることを防ぐものと期待されている。

IMF の新規ファシリティ・SLF の概要:

- **目的** 既存の IMF の資金を利用し、大規模で迅速な支払いを融資当初の段階で実施する短期融資のファシリティを設立。対象は、強固な経済政策と良好な経済運営の実績を有するにもかかわらず、国際資本市場の状況から一時的に流動性の悪化に直面している国。
- **規約** IMF による融資額は、当該国のクォータ（出資割当額）の 5 倍までとし、期間は 3 ヶ月。12 ヶ月で最大 3 回の引き出しが可能。
- **適格条件** 良好な経済政策運営の実績、国際資本市場へのアクセスがあり、債務水準が持続可能である国。当該国の政策が、最新の 4 条協議において、非常に肯定的な評価を受けていることを条件とする。過去の実績が重視されるため、IMF の通常の融資で適用される融資資金の段階的な支払い、融資条件としての政策実施、政策監視（モニタリング）などのコンディショナリティは割愛される。しかし、借り入れ国は、引き続き強力なマクロ経済政策のフレームワークを維持することが期待される。

SLF の発表に際し、ストロスカーン氏は「IMF は、現在の危機に対して、あらゆる必要な金融支援手段を駆使して対応する」と強調した。「我々は、各国が信頼の回復と安定維持にむけ必要な資金を調達できるよう、IMF 自体の資金を駆使するだけでなく、更なる資金の確保に向け他国・機関との協力も惜しまない」と専務理事は語った。